

木材ジャーナル 名古屋・せぶ

平成30年7月号 No.134

名古屋木材組合
名古屋港木材産業協同組合

平成29年版 森林・林業白書

森林と林業に関する動向と施策をまとめた「平成29年度 森林・林業白書」が、平成30年6月1日に閣議決定され、平成29年度の森林及び林業の動向と平成30年度に講じようとする施策について公表された。

「平成29年度森林・林業白書」は、この一年間における森林・林業の動向や主要施策の取組状況を中心に国民の関心と理解が深まることをねらいとして作成されており、トピックスと下記の6つの項目で構成されており、今回はトピックスの概要を紹介します。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第Ⅰ章 新たな森林管理システムの構築 | 第Ⅱ章 森林の整備・保全 |
| 第Ⅲ章 林業と山村（中山間地域） | 第Ⅳ章 木材産業と木材利用 |
| 第Ⅴ章 国有林野の管理経営 | 第Ⅵ章 東日本大震災からの復興 |

トピックス

1. 森林環境税（仮称）の創設

平成29年12月に閣議決定された、「平成30年度税制改正の大綱」において、市町村が実施する森林整備等に必要なた財源に充てるため、平成31年度の税制改正において森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）の創設が決定されました。

森林の有する地球温暖化防止や、災害防止・国土保全、水源涵養等の様々な公益的機能は、国民に広く恩恵を与えるものであり、適切な森林の整備等を進めていくことは、我が国の国土や国民の命を守ることにつながります。近年手入れが行き届いていない森林の存在が顕在化しています。森林環境税（仮称）は、こうした課題を解消し、森羅林の整備等を進めるために、国民一人一人が等しく負担を分かち合って我が国の森林を支える仕組みとして、創設されることになりました。

2. 「地域内エコシステム」の構築に向けて

日本の森林は、山村における林業生産活動を通じ、国民への木材・木材製品の供給源となるとともに、かつては、山村の住民にとって薪や木炭等の燃料の供給源でもありました。昭和30年代後半の「エネルギー革命」以降、こうした燃料の利用は少なくなり、山には間伐材・林地残材が残される状況が続いてきましたが、近年、木質バイオマスが再生可能エネルギーの一つとして再び注目されています。

特に平成24年7月から「再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）」が導入され、間伐材・林地残材等由来の木質バイオマス発電施設の増加に伴い燃料材の輸入が増加しているほか、間伐材・林地残材を利用する場合でも燃料の製造コストや、送電線設置の負担が大きくなるといった状況にあります。こうした状況を改善しつつ、地域の森林資源を再びエネルギー供給源として見直し、集落内で完結する比較的小規模で、集落の維持・活性化につながる低コストなエネルギー利用をどのように進めていくかということが喫緊の課題となっています。

3. 「日本美しい森 お薦め国有林」の選定

林野庁では、平成28年3月30日に「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」（議長:内閣総理大臣）により策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」を踏まえ、平成29年度より国有林の「レクリエーションの森」を核とした山村地域における観光地域づくりの取組を推進することとしています。

優れた自然景観を有するなど、観光資源としての潜在的魅力があり、観光庁や環境省の施策、農泊と連携した取組が可能となる全国93か所のレクリエーションの森を有識者の意見を踏まえ「日本美しい森 お薦め国有林」として選定しました。

4. 明治150年～森林・林業の軌跡～

平成30年は、明治元年から起算して満150年となります。

現在では、世界で有数の森林国と言われ、スギやヒノキを中心とした充実した森林資源を有する我が国ですが、明治時代から戦中・戦後まもなくにおいては、造林未済地いわゆる「ハゲ山」の状態の土地が150万haに上り、各地で大規模な山地災害や水害が発生しました。これらの荒廃の進んだ森林において、先人達が造林や保育を行うなど、様々な過程を経て、今日の姿があります。こうした歴史を振り返ることは、戦後に植栽された人工林が利用期となるなど、森林資源を活用していく転機を迎えている今、100年150年先の森林・林業を思い描くための重要な機会となり得るものです。

“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを

今年 は 西部 木材 港 開港 50 周年

2

偶 感

横 井 敬 司

(元名古屋港木材産業協同組合副理事長・前広報委員長 任期：平成8年3月～20年3月)

名古屋港木材会館が完成して色々な委員会が設立されました。その中のひとつに(株)サンフードに全面的に依頼したレストランと給食を行う委員会が出来ました。当時昼の給食は戦国時代といってもよい程、名古屋・桑名・四日市方面より10社近くが獲得競争をしていました。責任者の外山氏は中々の遣手でしたが、500食を目前にして退社して給食数は一変に減少傾向になり給食事業は撤退しました。

又、広報委員も仰せ付きりマンスリーせぶ創刊の昭和55年4月より30年間携わることになりました。初めは記事にする出来事が次々とあり月々の記事もそれほど難しくなく手に入り、余り苦労はなかったのですが段々と記事にすることが少なくなり苦労が増えました。

そんな中、工業団地では竹之郷住宅用地を造成してそこに住んでいる人が、選挙の時には26票程あることで現村長の久野時男氏や村会議員であった佐藤峰男氏と知り合うことになり、特に佐藤氏とは商工会の関係で深くなっていきました。

又事務局の後藤啓一氏の尽力により11月第1日曜日に開催される飛島フェスタに木材の宣伝をしようと、県木連から助成金を貰い広報委員のボランティアで、パネル展示や木製品の配布、又木材青壮年会の木工教室用の部材を販売して、そこで子供達向けに木工教室を開きました。これは好評で、終わった後でもあの製品が欲しいと言われた事が何度もありました。この事業は6年ばかり続いたと思います。

飛島村と臨海部の人達との関係を深める為に飛島商工会の人達と年2回、ふれあい市と称して飛島村の農産物を安く販売する市を催し、通りすがりのトラックの運転手達にも買って貰いました。

理事長であった桐山富治氏が「今の村長は税金だけ取って臨海部の我々を村民とは認めていない」と怒っていましたが、40年の経過と共に新しい村長の意識も大きく変わったと思います。

全く違う事柄ではありますが、昭和51年に設立した木材産業吟舞連盟という詩吟の会があり、13年前に西部臨海工業地帯に私を含め4名の会員がおり、在住・在勤ならば飛島フェスタに出れるからと4名が2年出演したことがあり、それが縁で私は飛島詩吟クラブに勧誘され、去年の秋からそのクラブで教える立場になり、毎週木曜日9時半から11時半迄稽古をしています。飛島に通い初めて満47年が経ちましたが、あと何年通うことが出来るだろうと思っています。

◆ 合縁木縁 ◆

「 転職して、3年間の感想 」

3年前に20年間勤めていた会社の製造部門が、閉鎖になる事となり希望退職者を募集しておりました。私は、希望退職の対象部署に勤務しておりましたので、家族と相談し転勤等の事を考えると初めての転職で不安でしたが、希望退職する事を決心しました。

会社の再就職支援の斡旋にて、同じ業界で、会社の仕入先でもある愛日木研(株)が求人を出しておりましたので、面接させて頂き入社する事が出来ました。

入社して3年が経ち、お客様の担当をさせて頂き色々経験をしています。以前の会社は、規模が大きく、開発、営業、製造、品質管理、物流等と部門が分かれており、仕事内容がある程度の範囲に決められていました。しかし、転職した愛日木研(株)は、社名の通り木を研究する会社で、取り扱っている木質材料は、多岐に渡っています。板材(PB、MDF、HB、合板)下地材、表面材、化粧材、木材、造作材、造作家具、金具又は、それらを製造するメーカー、製造工場等の知識が膨大に必要です。3年経った今でも毎日1つはわからない事があり、メモして先輩に聞いてその日に解決出来る様にしています。今、改めて、以前にいた会社の事を外から観ると立派な会社に居たとつくづく思います。今の会社も、規模は小さいが、一箇車でしかなかった私が、今は一つの車輪となって活動しています。私自身お客様への営業も必要となりますので、苦手意識はあるものの少しでも仕事を頂けるよう頑張っています。一人でやる業務は多いですが、皆、声を掛け苦しい時も乗り切っています。年に一度の社員旅行もあり、毎年楽しみのひとつになりました。

さて、話は中日ドラゴンズになります。私はそもそも長崎出身で、野球観戦した事はあまりありませんでした。それが今では、年何回か、ナゴヤドームに行く程、家族そろってドラキチであります。投手王国 いい響きです。今では懐かしい響きに聞こえて来ます。先発4本柱いったいダレ? 中継ぎのエース 誰? 炎のストッパー 本当に火ダルマ。全く勝てる気がしないのは私だけでしょうか?今は我慢の時、確実に若手が成長しているのであと4年後は必ず投手王国が復活するらしい説を鵜呑みにして4年後の日本シリーズ観戦を楽しみにしたいと思いつつ監督はダレと、また現実に戻ってしまう私です。

次回は、名古屋木材(株) 田中 千鶴子氏にお願いします。

木場すずめ

『 内地杉と補助金 』

梅雨の季節になり、紫陽花の花の紫が日ごとに深まるようになりました。

先日、長野道を北上中、左右を見ますと赤松の立木が群生しており、何気なく見ますと薄茶色に変色したように見えました。そんな状況を得意先に訪問した際に聞きましたら、松喰虫に食われて、急速なスピードで広がっている、早急に伐採しなければならないと話していました。

話は一ヵ月前に戻りますが、毎年当社は5月に社内ゴルフコンペを行っており東海北陸道を北上、荘川高原CCで一泊二日で2.5ラウンドを強行しております。

今年は4月以降気温の高い日が続いたのか、残念ながら荘川桜も散っており、年々散る時期が早くなるようです。こちらに来る道中、杉、桧の伐採後が見られ、補助金の対象になっているのでは。現在北米産の針葉樹はアメリカの好景気、中国の木材輸入意欲の旺盛、カナダの昨年8月からの季節要因での伐採減少などから価格の高騰が続いており、高止まり状態です。南洋材にしても中国、インドの木材買い付けが強いことにより価格の高騰が続いており、チリ材、NZ材でもしかり高値が続いています。

外材に比べて内地杉、桧はどうでしょうか。季節要因にて価格の変動が若干あるにしてもほとんど低水準で、輸入材を扱っている我々としては不思議な感じがしてなりません。

最近針葉樹合板、バイオマスの原料として需要が増加、国内での丸太消費が増えています。ところが国内での丸太消費であるなら良いですが、杉丸太を補助金(税金)をつけて国外へ輸出している業者が増えている状態です。商社などが参入を競って丸太をかき集め、中国、韓国、台湾へ輸出しております。2017年度の丸太輸出は約97万立方、そのうち中国へは約77万立方(79%)、内訳は杉69万立方(89%)、桧8万立方(11%)、特に輸出は九州からが多く、杉丸太の価格は2017年平均約13,000円立方。

まさに世界一安い補助金漬けの日本の杉です。我々の税金を付けて輸出している。なんだか割り切れない気持ちが以前からしております。日本の木材を守るためか分かりませんが、戦後外材が輸入されて約60年から70年ほど経過しているのではないのでしょうか。その間に杉、桧が成長し、伐採時期が来ている現在、世界の木材価格は高騰し、相も変わらず補助金(税金)を付けて国外へ安売りしている。今まで外材を輸入し内地材丸太の成長を助けておりました(少し言い過ぎ?)我々外材輸入業者に補助金を出してもらいたいのですがどうでしょうか。いずれにしても杉、桧の価格を上昇させ日本の山の価値を上げる政策を早急に取りてもらいたいと思います。

お知らせ

☆☆☆ 飛島村親子木工教室 ☆☆☆

金づちが上手に打てるようになった！

6月16日(土)午前9時から飛島村中央公民館で、「親子木工教室」が開催され、稲生広報委員をメイン講師に、材惣木材㈱の成瀬委員、服部産業㈱の秦野委員をサブ講師として13組の親子さんたちが本棚の製作にいどみ、各組2つの本棚を次々に完成させていきました。

ある男の子は、最初は危なっかしい手つきで釘をうっていましたが、最後の方ではトントンと小気味のいい音を響かせて仕上げていました。またある女の子は、必死の顔でドライバーを回して木ねじを押し込んでいました。

翌日が父の日ということもあり、お父さんの活躍もめだちました。



☆☆☆ 西部臨海安全ニュース ☆☆☆

飛島村で出店荒らし被害発生！！

6月中、蟹江警察署管内では、一般住宅や店舗を狙った侵入盗の被害が多発しました。中でも飛島村内で店舗を狙った出店荒らし被害が2件発生しており、2件ともガラスを割られて侵入されています。

県内では、事務所等の裏口をパールでこじ開けて侵入される被害が多発しています。

被害防止のために施錠の徹底に加え、ガードプレートやセンサーライト、防犯カメラ、警報機等の音や光の防犯機器を設置する等「泥棒に入りにくそうだな」と思わせるような目に見える防犯をお願いします！

◆ 広告コーナー

快適な環境づくりに取り組む

INOUE

- バグフィルター集塵機
- 破砕機 ウッドグラインダー
- 木質ペレット製造装置
- サイクロン集塵機
- 粉砕機 ファンシュレッダー
- ブリケッタ
- 定量排出装置
- 火花探知器・安全装置
- 送排風機
- トラック積載装置
- 異物除去器
- ダクト部品

井上電設株式会社 | 名古屋市中区金山4丁目3-17
 TEL(052) 322-5271
 FAX(052) 332-5273
<http://www.inoue-d.co.jp> E-mail:tech@inoue-d.co.jp

新型 **GENEO** 誕生!

Clean Tech Diesel

トヨタL&F中部株式会社

本社 TEL:052-882-6411
 名港(営) TEL:0567-55-0722
 小牧(営) TEL:0568-77-5365
 高山(営) TEL:0577-33-4020

発行 名古屋木材組合
 発行者 西垣洋一
 〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10
 TEL <052> 331-9386
 FAX <052> 322-3376
 【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合
 発行者 嶺木昌行
 〒490-1444 海部郡飛島村木場1-74
 TEL <0567> 57-2017
 FAX <0567> 57-2018
 【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会